

ナシ輪紋病に対する‘新甘泉’の果実感受性

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

ナシ輪紋病菌のナシ果実への感染時期は主に梅雨時期とされるが、‘新甘泉’の果実において本病に対する果実感受性を調査した事例は無い。そこで、感染源のある自然降雨条件下で継時的に果実を曝露処理して、‘新甘泉’の本病に対する生育時期別の果実感受性を調査した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) 5月上旬以降のナシ輪紋病に対する‘新甘泉’の果実感受性は、満開後56～75日頃に高い。例えば平年の満開日（4月15日）で示すと、概ね6月中旬～下旬頃の感受性が高い。
- 2) 有袋条件では、果実へのナシ輪紋病の感染リスクは低い。

2 試験成果の概要

- (1) 2019年及び2020年の5月以降に樹上に感染源（ナシ輪紋病の枝病斑）を設置し、自然降雨条件下で5月以降収穫期まで概ね旬別に果実を無袋で管理する区、有袋で管理する区及び無袋で管理する区を設けて、収穫果実においてナシ輪紋病の発生量を調査した。
- (2) 満開日は、2019年は4月18日、2020年は4月16日であった。
- (3) 2019年は、曝露期間が満開後54～73日の果実で発病し、感受性ピークは満開後64～73日であった（図1）。
- (4) 2020年は、曝露期間が満開後56～75日と85～94日の果実で発病し、感受性ピークは満開後56～66日であった（図1）。
- (5) 果実を有袋で管理した区では、発病は認められなかった（図2）。

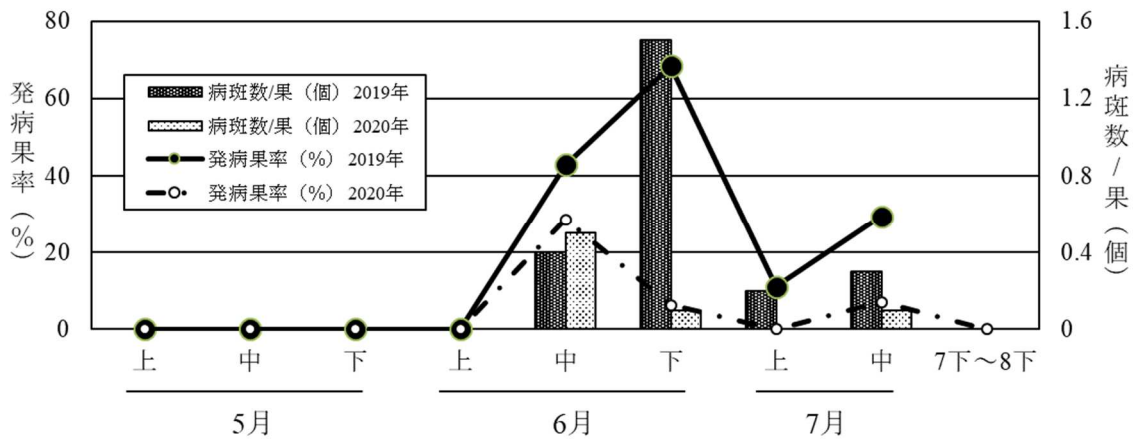


図1 時期別曝露接種によるナシ輪紋病の発生量の推移

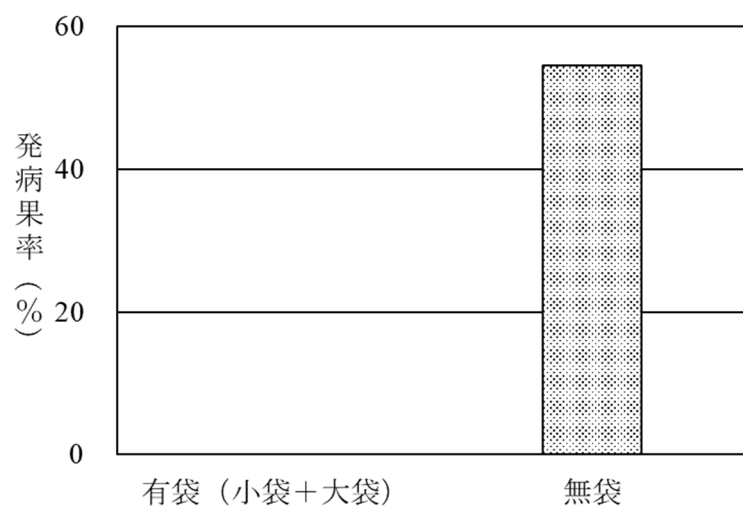


図2 果実袋がナシ輪紋病の発生量へ与える影響(2020年)

3 利用上の留意点

- (1) 感受性は、鳥取県における事例である。
- (2) 実際の発生量には気象条件も関与すると考えられる。

4 試験担当者

環境研究室 研 究 員 山 田 高之
 環境研究室 室 長 中 田 健※
 ※現 農業振興監経営支援課農業普及推進室